

地域自治における労働組合の役割とは ～労働組合は地域を支えるのか～

京都府本部／自治労京都市職員労働組合 清掃支部
中川 純

【はじめに】

- ◎社会は、様々な地域活動の支えによって成り立っています。
- ◎京都市では、2025年12月に「京都基本構想」が京都市民と市内外の方々と有識者の意見や議論が重ねられて策定されました。
- ◎日本の少子高齢化社会、人口減少の問題と、京都市においても人口流出は年々増加しています。
- ◎わたしは、京都市職員として働きながら、労働組合の役員として活動し、また、地域では体育振興会役員や消防団員として、自治会活動を取り組んできました。
- ◎労働組合と地域活動の両立とは？
- ◎地域自治に効果をもたらし貢献できるのか？社会の役に立つのか？
- ◎あらゆる角度からこのような課題に向き合い、これまで実践してきたことをレポートにまとめてみました。

京都基本構想

※一部抜粋

京都基本構想は、千年先を見据え、今後25年間(2026年～2050年)の「**まちの羅針盤**」となるものです。

わたしたちのくらしは、社会や技術の進歩によって便利になる一方で、気候変動の影響や社会的分断の顕在化など、これまでのように経済的な成長だけでは解決できない課題がいくつも生じています。

京都でも、長い年月をかけて受け継がれてきたくらしの文化や伝統的な町並み、商いのあり方など、このまちらしさをかたちづけてきた大切なものが、失われかねない状況にあります。

京都がこれからも京都らしくあり続け、千年先まで多くの人々をひきつけるまちであるために、わたしたち京都市民が**これからも大切にし、未来に引き継ぐべき価値や、めざすまちの将来像**を示すものとして、京都基本構想を策定しました。

行政は、公事にかかわる市民と多義的な市民との結節点となる

これからは、より多様でより多彩な人々が、自分事として公共にかかわっていただけるよう、行政は、業務のあり方を不断に見直して、公・共・私境界をできるだけ低くして、公事にかかわる市民と多義的な市民(=0.1市民とをつなげる結節点となり、ともに対話と議論を重ねて、みんなが協働でまちづくりを担っていけるような仕組みを設計していきます。

京都にかかわるすべての人々が、このまちに「**居場所**」と「**出番**」を見つけ、またつくり出せるよう協働していくことで、京都の未来の基盤にしていきたいと考えています

体育振興会の活動について

京都市の体育振興会

京都市では、1953年に発足して以来、約半世紀の歴史を有する全国に類のない京都市の市民のスポーツ団体。スポーツの振興を通じて、地域コミュニティの活性化に大きく貢献している。市内220の元学区ごとに組織されており、地元の小学校施設などを主な活動拠点として、学区民体育祭など地域に密着したスポーツ事業を展開している。

また、各行政区ごとにその連合組織である各行政区体育振興会連合会，市全体では京都市体育振興会連合会が組織されており，それぞれ区レベル，全市レベルでスポーツ大会を開催し，多数の市民の参加を得ている。

朱雀第四学区体育振興会

学区民の健康や交流の増進を図るため、日々の各クラブ活動の支援や、自治会の取り組みへの協力と、自治体主催のスポーツ大会への参加が主な取り組みとなり、区民運動会は、最大のイベントとして、数ヵ月も前から会議を重ね、区民に喜んでもらえるような企画などを話し合いながら準備をしています。

クラブ名
グラウンドゴルフ
バドミントン
ボウリングサークル
バレーボール
ソフトバレーボール
卓球

京都市山科区鏡山学区で約50年にわたって続いてきた区民大運動会が岐路を迎えている。高齢化や新型コロナウイルス禍によって参加する町内会が減る中、主催する鏡山体育振興会は今年、子ども向けの祭りを同時開催して子ども食堂を実施するなど、地域住民らが参加しやすい大会の実現に向けて模索を始めた。

区民集う大運動会 岐路に

50年続く山科・鏡山学区5日開催



（京都府山科区御陵血洗町・鏡山小）＝鏡山体育振興会提供

高齢化で参加町内会減 子供向けに祭りや食堂も

同会によると、区民大運動会は学区内の住民が一斉に集うほぼ唯一の行事。しかし、新型コロナウイルス以降、参加数は減少し、昨年は全27町内会のうち15町内会ほどまで減った。区は市内で1、2位を争う高齢化地域で、同学区も例に漏れず、参加に伴い必要なテントの運搬や設置、弁当の手配が負担となっている現状もあるという。

一方、参加しない町内会の子どもからは「参加したい」という声も聞ける。町内会の参加の有無に関わらず子どもたちに足を運んでもらうと、5日の大運動会は自治連合会主催の祭りを同時開催することに決めた。

参加しない町内会の子どもは昼食の用意がないため、小学生以下は子ども食堂で焼きそばを振る舞うほか、町内会の参加の有無を問わずに出場できる競技で、祭りの屋台に使える菓子やジュースの商品券を配る。

「規模を縮小することは簡単だが、地域がつながる機会を諦めたくない。1人でも多くの人に参加してもらい、大運動会の意義を感じてもらいたい」と河内康彦会長（55）は力を込めた。

（天草整理）

2025年10月2日「京都新聞」朝刊

記事の概要

- ◆50年にわたって続いてきた区民大運動会が岐路を迎えている。
- ◆区民大運動会は学区内の住民が一斉に集うほぼ唯一の行事。
- ◆新型コロナ禍以降は、参加数が減少し、昨年は27町内会のうち15町内会の参加となった。
- ◆記載の行政区は市内でも1、2位を争う高齢化地域となっているため、テントの運搬や設置、弁当の手配が負担になっている。
- ◆不参加の町内会の子どもからは「参加したい」との声もある。
- ◆町内会の参加の有無に関わらず子どもたちに足を運んでもらうために自治連合会主催の祭りが同時開催された。
- ◆体育振興会会長からは「規模を縮小することは簡単だが、地域がつながる機会を諦めたくない。1人でも多くの人に参加してもらい、大運動会の意義を感じてもらいたい。」

長年地域活動が続けてきた役員はどう感じているのか

◆ 朱雀第四学区体育振興会会長 辻 俊一さん

・ 1. 当時の体振活動と現在の活動と比べて違いはありますか？

⇒わたしが体振の役員になったのは1981年の26歳からで、今年で46年目になります。

⇒当時は役員でも30代、40代の方々が20人以上はいました。運動会の道具を手作りしていました。

⇒新型コロナウイルス感染症の流行の影響もあり、人付き合いが少なくなったように思います。

・ 2. 体振活動をやってきて良かったことはありますか？

⇒わたしは朱雀第四学区で育ち、みんなが喜んで、いろんな行事に参加されていることや、役員がたくさんいた頃は楽しかったです。わたしは朱雀第四小学校の各種団体を守るっていうか、生まれ育ったところが一番という事です。

・ 3. 体振活動に対する思いや希望があればお願いします。

⇒やはり、継続はしていかなければなりませんし、とにかく役員のなり手を探すのが、大変になってくると思います。希望は、もっともっと若い方々に集まってもらって、というか、集まる体育振興会にしていかなあきません。

⇒それには、新しい風、もっと新しい事も取り入れて、多世代交流と、地域の方々がやってやろやないかと広げていかないと。単なる運動会や、試合だけでなく、本当にたくさんの方が集まれる事をやっていかなければいけないと思います。これからは体育振興会だけではなく、地域全体も把握していっそ各種団体と今まで以上に協力していかなければいけないと思います。



区民運動会で表彰する辻会長

前日のライン引きは思っている以上に大変です！



会場看板は伝統があり、重要です



スターターの任務
楽しんでます☆

毎年多くの区民が参加してくれています



学区対抗リレー
に出場し、連覇
達成❀



大会実行委員長として、
開会宣言の任務



区民運動会の取り組み

新たに役員として、地域移行の取り組みについて

◆朱雀第四学区体育振興会役員・地域クラブ活動推進コーディネーター 小柴 大樹さん

Q今後の地域移行に向けての考えと展望について

⇒京都市の中学校部活動の地域展開に向けて、具体的な実施計画案が示されたことは、未来に向けた大きな一歩だと受け止めています。活動時間や休養日の基準、参加費の考え方などが示されたことで、地域移行の方向性が少しずつ見えてきたと感じています。

- ・一方で、現場で子どもたちと関わる立場としては、期待と同時に大きな課題も感じています。
 - ・これまで学校部活動は、多くの子どもたちにとってスポーツに出会う入り口であるとともに、仲間との関わりや挑戦、成功や失敗を経験する大切な学びの場でもありました。教員の働き方改革や指導者不足を考えると、これまでと同じ形で学校部活動を維持することは難しい現実があります。しかし、その教育的な価値は今後もいかなければいけないと思います。
 - ・また、地域展開が進む中では、活動場所や指導者の確保だけでなく、夜間の安全管理や移動手段、保護者負担など、様々な課題への対応も求められています。
 - ・さらに、地域クラブを運営する立場として感じているのは、活動そのもの以上に運営面の課題の大きさです。会員管理や会計、保険、施設調整、指導者確保など、子どもたちの活動を継続的に支えるためには多くの準備と仕組みが必要になります。
 - ・地域展開を成功させるためには、活動の受け皿を増やすだけでなく、地域で活動を支える人や団体が継続して運営できる環境づくりも欠かせません。
 - ・わたしたちは地域とのつながりを大切にしながら、スポーツを通じて子どもたちの成長を支えるとともに、地域活動とも連携した新しい価値づくりに取り組んでいきたいと考えています。
 - ・地域展開は、単に学校部活動を地域へ移すことなく、地域全体で子どもたちを支える新たな仕組みづくりの挑戦です。課題は多くありますが、学校、地域、クラブ、保護者がそれぞれの立場で協力しながら、子どもたちにとってより良い環境を築いていくことが重要だと考えています。
- 《今後の展望として》
- ・区民運動会など地域行事が地域のつながりを生み出しているように、地域展開もスポーツを通じて子どもたちと地域をつなぐきっかけになると考えています。地域全体で子どもたちを育てる環境づくりにつなげていきたいです。

地域住民の健康増進を目指す新たな取り組み

社会長のあいさつで競技開始！



- ・地域住民の健康増進と体を動かしていただく機会を拡大するために、体育振興会としては、役員の小柴さんを指導員として、新たにニュースポーツの種目の、ピックルボールとモルックを行った。
- ・実施当日までに体振の役員は集まって内容とルールを確認をしてきた。
- ・当日は、75歳から12歳までの住民の方に参加していただき、初めて競技したスポーツに汗をかきながら楽しんで交流してもらえた。

ピックルボール & モルック体験会

「運動は久しぶり…」 「ルールが難しそう…」 という方でも大丈夫！
どちらも老若男女を問わず、初めての人でもすぐに楽しめるのが最大の魅力です。ご友人をお誘い合わせの上、ぜひお気楽に二種のニュースポーツの体験会にご参加ください

日 時； 令和8年6月28日(日)
午前10時から12時

会 場； 朱四小学校 体育館・校庭
(南門からお入りください)

対 象； どなたでも(中学生以上)

参加料； 無 料 (申し込みは回覧板で)

持ち物； 動きやすい服装・室内シューズ

*ラケットやモルックなどの道具は用意します

スポーツ名	特 徴
ピックルボール	テニス、バドミントン、卓球をミックスしたようなスポーツ。コートが狭く、軽いボールを使うため、体力に自信がない方でもラリーが続きます！
モルック	フィンランド発祥の伝統的なゲーム。木の棒を投げてピンを倒すだけ！体力よりも「作戦」と「コントロール」が鍵を握る、究極のスポーツです！

主催：朱四体育振興会

ピックルボール



モルック



消防団の活動について

京都市消防団

京都市の消防団は、各行政区に設けられた11の消防団とおおむね学区単位に設けられた205の消防分団をもって組織されています。また、各消防団本団には特定の活動を行う機能別消防団をもって組織しています。

消防団は、消防局との力強い連携により、火災、震災その他の非常災害時における警戒防御活動を行うとともに、市民の防火・防災に対する意識と対応力を高めるため、昼夜を分かたず活動しています。

京都の消防団の歴史は、江戸時代の「常火消し」「町方火消し」の前進から続いており、300年余りの長い歴史となっています。

京都市中京消防団 朱雀第四分団

朱雀第四分団は、総勢20名、うち女性団員は3名います。分団は活気があふれており、「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神の下、一致団結して力強く頑張っています。

毎年学区内の半数の自主防災部を対象に、消火実験会を実施し、学区民の防火意識の高揚に努めています。分団員の防火指導力も向上しており、分団員一丸となり、きめ細かな指導で一人でも多くの住民の方に火災予防を訴え、安心して暮らせる無火災学区を目指しています。

わたしは現在、消防団部長として活動しています。

喫緊の課題とは…

総務省消防庁調査

リチウムイオン電池等から出火した火災は全国で急増しており、2025年には過去最多の1, 297件に達しました。

製品別ではモバイルバッテリーによるものが多いほか、電動工具、携帯電話(スマートフォン)からの出火も多く見られます。特にモバイルバッテリーの出火件数は2024年(290件)と比べて約7割増(482件)となっています。

また、本調査において特定された出火原因は製品によって異なり、モバイルバッテリーは外部衝撃・高温下での使用、携帯電話機は外部衝撃・分解、電動工具は非純正バッテリーの使用が多くなっています。

リチウムイオン電池発火件数全国

2022年	2023年	2024年	2025年
601件	739件	982件	1, 297件

リチウムイオン電池発火件数京都市

2023年	2024年	2025年	2026年6月末
9件	21件	27件	25件

環境省調査

近年、リチウム蓄電池を使用した製品が増加し、リチウム蓄電池等が廃棄物として処理される過程で火災事故等が発生し、廃棄物処理施設や収集運搬車両等への被害に加えて、廃棄物の処理が滞ることに伴うその地域の生活環境保全上の支障や経済活動の停滞が懸念されている。

2021年度に発生したリチウムイオン電池に起因する廃棄物処理施設等における火災事故等の被害総額は約96億円～108億円(処理施設停止中の他自治体への処理委託費含む)と推計されている。

廃棄物処理施設や収集運搬車両等における火災件数全国

2022年	2023年	2024年
4, 260件	8, 543件	9, 923件

南部クリーンセンター火災発生！

2026年1月14日午後4時23分ごろ、京都市伏見区にあるごみ処理施設の粗大ごみをためておくピット内で火事があり、約48時間後の16日午後4時10分ごろ消防車両延べ88台を出動させ、鎮火した。

出火原因は年末に受け入れた粗大ごみの中にリチウムイオン電池が混入し、ピット内の下層部で出火した。

南部クリーンセンターにおけるごみの焼却処理について、1月21日（水曜日）午後5時頃から再開。

南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」は、1月14日（水曜日）に南部クリーンセンター粗大ごみピットで発生した火災の影響を受け、煤（すす）による建屋内の汚損、設備の焼損と消火活動に伴う水没による被害が大きい状況であり、この間、臨時休館していましたが、館内の清掃等が終了したため、4月2日（木曜日）から再開。

第3種郵便物認可 発行所：京都市伏見区南田町1-1-1 発行日：2026年1月14日 発行部数：10,000部 発行代金：10,000円 発行所：京都市伏見区南田町1-1-1 発行日：2026年1月14日 発行部数：10,000部 発行代金：10,000円

京都市南部クリーンセンター火災



火災が発生し、煙が上る京都市南部クリーンセンター。15日午後4時、伏見区南田町1-1-1で発生した火災は、発生から約48時間後の16日午後4時10分ごろ消防車両延べ88台を出動させ、鎮火した。出火原因は年末に受け入れた粗大ごみの中にリチウムイオン電池が混入し、ピット内の下層部で出火した。

鎮火めど立たず

京都市伏見区南田町1-1-1の南部クリーンセンターのピット内で発生した火災は、発生から約48時間後の16日午後4時10分ごろ消防車両延べ88台を出動させ、鎮火した。出火原因は年末に受け入れた粗大ごみの中にリチウムイオン電池が混入し、ピット内の下層部で出火した。

けが人なし



市消防局や環境政策局によると、粗大ごみをためておくピット内の下層部で発生した火災は、発生から約48時間後の16日午後4時10分ごろ消防車両延べ88台を出動させ、鎮火した。出火原因は年末に受け入れた粗大ごみの中にリチウムイオン電池が混入し、ピット内の下層部で出火した。



火災となった粗大ごみのピット。家や家電の破損が確認されている。京都市消防局によると、火災は発生から約48時間後の16日午後4時10分ごろ消防車両延べ88台を出動させ、鎮火した。出火原因は年末に受け入れた粗大ごみの中にリチウムイオン電池が混入し、ピット内の下層部で出火した。

家庭ごみ収集時間変わる可能性

京都市南部クリーンセンターの火災を受け、市は15日家庭ごみの収集時間が変わる可能性があるとして発表した。持ち込みごみの予約は当面、東北部クリーンセンター（左京区）で受け付ける。南部クリーンセンター（伏見区）は当面、環境学習施設「さすてな京都」は当面、休館する。

市施設管理課によると、家庭ごみは通常の曜日収集だが、火災発生後は、東北部と北部クリーンセンター（左京区）に委託することに伴い、収集時間が早くなるという。

億2年度自動びた田手た。丁井る始め芳響黒泰に73葛瀬湖・重要2千方地域でスマー自

京都市南部クリーンセンター 先月の火災

リチウム電池発火が原因

1月に発生した京都市南部クリーンセンター（伏見区）の火災で、市は17日、原因は粗大ごみの中に混入していたリチウムイオン電池が何らかの原因で発火し、ピット内にためていた粗大ごみに燃え広がったとみられると明らかにした。火災は1月14日に発生し、16日に鎮火した。市によると、原因となったごみは特定できないが、監視カメラの画像でピット内を確認したところ、火花は発生しておらず、放火などの外的な要因もなかったという。年末に多くの粗大ごみが持ち込まれて、ピット内

に約2600立方メートルの家具や家電がたまっていて、ことや、ごみの深い層から燃え広がったとみられることが、火災拡大の要因とした。

センター内の焼却施設は再開しているが、粗大ごみを細かく破碎する施設の復旧めどは立っておらず、粗大ごみの処理は現在も東北部クリーンセンター（左京区）で行っている。市は、充電式の電化製品はごみ処理の過程で発火する危険があるとして、区役所などの回収拠点に持ち込むよう呼びかけていく。

（岡本卓苗）

京都市職員として消防団員としての取り組み（啓発と広報）

京都市消防団フェスタ

- ・京都市内の各消防団と京都市消防局では、消防団を身近に感じていただくとともに、消防団への入団促進や防火防災意識の向上を図るため、消防団充実強化チーム（補足）の企画・運営で京都市消防団フェスタが開催されてきた。
- ・毎年多くの方の来場者があり、いい機会と捉え、ステージ上でリチウムイオン電池が原因とした火災防止のお願いと、回収拠点への持ち込みの協力などを呼びかけて、京都市環境政策局の啓発ビラを配布してアピール行動を行った。
- ・来場者の中に京都市会議員の方がおられ、終了後に現場実態を話したところ、その後の京都市会の委員会で、リチウムイオン電池対策について発言していただく事も実現した。

アピール行動！



労働組合役員としての取り組み① （交渉事項）

環境省への要請行動



環境政策局との労使交渉



自治労現評清掃部会—環境省

・自治労現業評議会清掃部会長として、全国的なリチウムイオン電池火災の現場実態の課題と、すべての自治体における適切な回収や対策を求め、環境省へ要請行動を行った。環境省からは、「リチウムイオン電池の取り組みは、政府あげて取り組みが必要だと危機感を持っており、しっかり取り組んでいく。」と回答を引き出し、経済産業省や消防庁を含む、各省庁との連携の強化と、2025年4月には、各自治体・市町村あてに小型のリチウム蓄電池等の安全収集を行うための方針と対策を盛り込んだ通知が発出され「リチウム蓄電池等処理困難物対策集」を公表し、2026年4月には「循環型社会形成推進交付金」の要件も見直され、消火設備の設置等への支援も拡充された。

自治労京都清掃支部—環境政策局

・自治労京都清掃支部長として、京都市におけるリチウムイオン電池の火災対策や市民の回収機会の拡大等の課題解決を求め、環境政策局と交渉を行った。支部局ともに共通の課題認識を持ちながら労使交渉し、環境政策局としては、2026年5月市会において、「リチウムイオン電池の火災対策費」として、9900万円の補正予算を計上し、回収拠点の強化としては、これまでの2事務所の土日開所から新たに山科、西京まち美化事務所での回収や、図書館、いきいき市民活動センター等の回収拠点を、現行の44か所から57か所まで拡大し、市民の排出機会を増やし、対策が強化されてきた。

労働組合としての取り組み②（交渉事項・改善）

・わたしの親族が、京都市職員として働きながら地域活動として、里親支援活動と保護司の活動を続けていた。

しかし、平日の会議や集会への参加へは自分の休暇を取って活動している実態がありました。

・他にもこのような状況下で京都市職員として活動を続けておられる方が存在するのではないかと思います、2025の賃金確定交渉において問題の提起と改善を求めました。

・人事当局からは、新たにボランティア休暇の見直しとして、「地域に貢献する活動」を追加して対応し、これまで地域活動を展開してきた職員と、これから活動を始める職員が、取り組みやすい制度への見直しとなった。



1 見直し内容

(1) 取得要件

ボランティア活動休暇の対象に地域貢献活動を追加します。

見直し前	見直し後
職員が自発的に、かつ、報酬を得ないで、国内において次に掲げる社会に貢献する活動を行う場合 (1) 被災者への支援活動 (2) 障害者支援施設等における活動 (3) 介護等の日常生活への支援活動	職員が自発的に、かつ、報酬を得ないで、国内において次に掲げる社会に貢献する活動を行う場合 (1) 被災者への支援活動 (2) 障害者支援施設等における活動 (3) 介護等の日常生活への支援活動 (4) 地域に貢献する活動【追加】

本市又はボランティア活動休暇を受ける職員が居住する本市以外の市町村（特別区を含む。）の区域内において行われる次に掲げる地域に貢献する活動（当該活動を行う団体からの応援要請又は募集に応じて行うものに限る、かつ、職員の勤務条件の維持改善を図ることを目的として行うものを除く。）

- ア 伝統行事や地域イベントの振興（祇園祭の曳き手など）
- イ 地域ブランドや地場産品のプロモーション（地域活性化ボランティアなど）
- ウ 地域の防災、防犯（水防団の活動、防犯パトロールなど）
- エ スポーツ・文化芸術活動の指導・支援（スポーツの審判、芸術イベントにおける活動など）
- オ 教育や若者自立支援（PTAの活動（旗当番や役員会）など）
- カ 住民の生活支援や福祉（自治会・町内会の活動、子ども食堂における活動など）
- キ 環境の保全や監視（地域のゴミ拾い、植樹・植林活動など）
- ク 移住者受入れや定住（移住サポーターなど）

祇園祭り ごみゼロ大作戦

労働組合としての取り組み③（地域活動）

・清掃支部では、活動が始まった2014年から参加を続けてきました。この活動が始まる前までは、祭りの終了後の夜から朝方にかけて、地元地域の方たちが、ごみ回収や清掃活動を長らく続けてこられました。環境政策局で働く労働同組合として、少しでも地域の負担を軽減していくことを目的として多くの組合員に結集してもらって続けてきました。2025年からは、この活動に賛同をいただいた、京都府下と他都市からの直営の清掃労働組合の仲間にも参加していただいています。

2025年度

参加79名



祇園祭の山場となる山鉾巡行前の宵山行事期間中は、多くの夜店・屋台が四条烏丸を中心に広範囲で立ち並び、国内外から多くの来場者が訪れます。しかし、来場者数に比例して課題となるのが廃棄物であり、以前に比べ散乱ごみなどは減ったものの、可燃ごみの量は増える一方で、環境負荷が大きくなってきている現状でした。

そこで、二〇一四年、夜店や屋台の協力のもと、日本初、そして世界初の試みとして、約二万食分の使い捨て食器をリユース食器に切り替える活動を展開しました。具体的には、当日、ボランティアスタッフとして参加した二〇〇〇名のみなさんと共にエコステーションの設置、ごみの分別作業等を行い、一昨年六〇トンだった燃やすごみを三四トンにまで減量させることが出来ました。

※祇園祭りごみゼロ大作戦とは

さいごに

- ◆京都市における区民運動会は、各町内会が一同に集う重要な行事となっています。しかし、新聞記事にも記載されていたように、地域での高齢化等で継続が困難な学区も増加傾向にあります。わたしも区民運動会を実施するにあたり、子どもから高齢者までが参加して楽しんでもらえるようなプログラムを考えたり企画していますが、これを機会に各学区での区民運動会を参考にしながら次世代へと残していきたいと思います。
- ◆今後の部活動の地域移行については、教職員の長時間労働や離職の問題があり、京都市では、2028年9月の移行に向けて整備が進められていますが、予算や安全面等の課題の整理は当然ですが、地域との連携や理解と支援は必要といえます。
- ◆朱雀第四学区自治連合会によると、2025年度の自治会・町内会の脱退が約100軒あったと報告されていました。
- ◆自治労京都市職でも毎年約100人の組合員が減少してきています。全国の自治労においても組合員の減少は深刻です。
- ◆地域の役員も労働組合の役員も世話役として活動していますが、どちらもなり手不足の状況となってきています。
- ◆京都基本構想は、今後25年間の「まちの羅針盤」として策定され、京都がこれからも京都らしくあり続けるためとされています。
- ◆市民との結節点となり、京都市民に「居場所」と「出番」をつくっていくには、職員自らも地域活動に可能な限り取り組んでいく事も重要ではないかと考えます。
- ◆住民が、行政に対してどういう事を期待したり、要望を持っているかを地域活動の中にはたくさんのヒントや答えがあふれています。
- ◆自身の経験を踏まえると、労働組合での役員の経験は、地域活動には貢献できると思います。
- ◆わたし自身も、これからも両立した活動を継続しながら、活動の必要性を社会に訴え、職場と地域の活性化につなげていきたいです。



良い社会は
良い地域がつくる☆

